

Dell™ Online Diagnostics バージョン 2.16 ユーザーズガイド

[はじめに](#)

[Dell Online Diagnostics のセットアップ](#)

[Dell Online Diagnostics の使用](#)

[Dell Online Diagnostics の実行 \(GUI モード\)](#)

[サポートされているデバイス](#)

[付録](#)

メモおよび注意

 **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** 注意は、手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

© 2010 Dell Inc. 無断転載を禁じます。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標: Dell, DELL のロゴ, PowerEdge, PowerVault, および OpenManage は、Dell Inc. の商標です。Microsoft, Windows, および Windows Server は、Microsoft Corporation の米国またはその他の国における商標または登録商標です。Intel は、Intel Corporation の米国 またはその他の国における商標です。Red Hat および Red Hat Enterprise Linux は、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。SUSE は Novell, Inc. の登録商標です。VMware は、VMware, Inc. の米国およびその他の管轄区域における登録商標です。Broadcom は Broadcom の登録商標です。商標または製品の権利を主張する事業体を表すために、その他の商標および社名が使用されていることがあります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

2010 年 7 月

付録

Dell™ Online Diagnostics バージョン 2.16 ユーザーズガイド

表 A-1 ストレージ診断用の追加のデバイス情報

パラメータ	説明
合計移動数	オートローダ付け替えの合計数。
ドライブロード	マガジンとメールスロットからドライブへのロード数。
メールスロットのエクスポート	カートリッジがシステムからエクスポートされた回数。
メールスロットのインポート	カートリッジがシステムにインポートされた回数。
マガジンの移動	ストレージスロット間の移動数。
マガジンのロード	カートリッジがストレージスロットからドライブに移動した回数。
サーボハードエラー	回復不可能エラー数。
ドライブソフトウェアエラー	各フィールドには、そのコンポーネントに対して高レベルの回復可能エラーが報告された回数が表示されます。
回転数の回復処置	各フィールドには、ある動作を実行するためにその軸で必要であった回復処置の回数が表示されます。
システムの移動	システム移動の総数には、スロットに関係なく、ポイント間の移動がすべて含まれます。
System Pick の再試行	スロットを問わない Pick 再試行の総数。
System Put の再試行	スロットを問わない Put 再試行の総数です。
エレメントの Put の合計	エレメントの場所へのカートリッジの合計 Put 数です。
エレメントの Pick の合計	エレメントの場所へのカートリッジの合計 Put 数です。
エレメントの Put 再試行の合計	エレメントのアドレスで示されるエレメントへの Put 再試行の総数です。
エレメントの Pick 再試行の合計	エレメントアドレスからの Pick 再試行の総数です。
ファームウェア	テープデバイスのファームウェアバージョン。
前回のクリーニング	前回のクリーニングが実行されてからの経過時間。
クリーニングが必要	クリーニングを必要とする条件が存在する場合は、 はい に設定します。
クリーニングテープの交換	クリーニングテープの交換が必要な場合は、 はい に設定します。
ドライブクリーニング回数。	ドライブクリーニングのサイクルカウント。
テープクリーニング回数。	各カートリッジのクリーニングセッション数を示します。
電源オン時間 (POH)	テープドライブの電源がオンであった時間数を示します。
テープの稼働時間 / シリンダオン時間 (COH)	この値は、テープドライブがバックアップと復元に使用された時間を示します。
ロードカウント	テープカートリッジがロードされた回数を示します。ドライブによっては、テープカートリッジが挿入される度にこの値が増加する場合とテープカートリッジがアンロードされる度にこの値が増加する場合があります。
クリーニング回数	各カートリッジのクリーニングセッション数を示します。
前回は互換性のないメディアがロードされた時間 (COH)	COH のタイムスタンプ
過熱状況が発生した時間 (POH) - ゼロを返します。	POH のタイムスタンプ
電源の不具合が発生したときの時間を POH で示します。	POH のタイムスタンプ
クリーニングの合計数	クリーニングテープを使用して実行したクリーニングの合計回数を示します。
前回のクリーニングからの経過時間	タイムスタンプが時間で表示されます。
前回の緊急取り出し時間 (COH)	タイムスタンプが COH で表示されます。
メディアタイプ:	指定されたメディアタイプの合計 COH を示します。
合計時間 (COH)	
センスコード (4 つの最新センスコードのリスト)	さまざまなコードとパラメータがリストに表示されます。例: センスキー、追加のセンスコード、追加のセンスコード修飾子など。
テープの累積使用メーター	これまでに書き込まれたテープの物理的な累積長さ。
前回のクリーニングからの経過時間 (MMH)	前回のクリーニング作業後に経過したメディア稼働 (ヘッド) 時間。
3 回前のクリーニングからの経過時間 (MMH)	2 回前のクリーニング作業後に経過したメディア稼働 (ヘッド) 時間。
3 回前のクリーニングからの経過時間 (MMH)	3 回前のクリーニング作業後に経過したメディア稼働 (ヘッド) 時間。
強制リセット / 緊急取り出しが発生したときの電源オン時間	オペレータが前回は強制リセット / 緊急取り出しを行ったときの累積電源オン時間。
Media Type	チェック状態または 00h でコマンドが終了したときにロードされたメディアのタイプ。
Density Code	チェック状態または 00h でコマンドが終了したときにロードされたメディアの密度コード。
MMHShort	チェック状態でコマンドが終了したときのメディアの稼働時間数。

反復ビット	0 - パラメータエントリ内で、センスキーと追加のセンスコード情報が 1 回発生したことを示します。 1 - パラメータエントリ内で、センスキーと追加のセンスコード情報が複数回、連続して発生したことを示します。
ファームウェアバージョン	チェック状態でコマンドが終了したときのファームウェアバージョン。
前回のクリーニング後の MMH	前回のクリーニングから、チェック状態でコマンドが終了したときまでのメディア稼働時間。
Opcode	チェック状態でコマンドが終了したときの操作コードです。
メディア ID 番号	チェック状態でコマンドが終了したときにメディアが存在する場合、メディア ID 番号には(1)バーコードフィールド値、(2)メディアシリアル番号、(3)ベンダー特有の値が含まれます。 メディアが存在しない場合、メディア ID 番号の値は 20h です。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

サポートされているデバイス

Dell™ Online Diagnostics バージョン 2.16 ユーザーズガイド

- [テープドライブ、オートローダ、ライブラリの診断](#)
- [RAID コントローラ、SAS コントローラ、SCSI コントローラ、および接続しているハードドライブの診断](#)
- [サポートされる RAID コントローラの診断依存性](#)
- [ファイバーチャネルコントローラ用の診断](#)

ここでは、Dell™ Online Diagnostics を使用してテストできるデバイスをリストにまとめました。

テープドライブ、オートローダ、ライブラリの診断

 **メモ:** デル認定のデバイスドライバをインストールして、テープドライブ、テープオートローダ、およびテープライブラリの診断テストを実行します。ご使用のデバイスに付属のマニュアルを参照してください。最新のデバイスドライバは、デルサポートサイト support.dell.com から入手できます。

 **メモ:** Linux オペレーティングシステムでは、SATA ハードディスクとコントローラの診断テストは実行できません。

Online Diagnostics が対応するデバイスの一覧は、Readme の「対応デバイス」を参照してください。

RAID コントローラ、SAS コントローラ、SCSI コントローラ、および接続しているハードドライブの診断

 **メモ:** 各コントローラに必要なファームウェア要件については、「[サポートされる RAID コントローラの診断依存性](#)」を参照してください。

 **メモ:** 個々のコントローラのテストの詳細については、Dell Online Diagnostics のオンラインヘルプを参照してください(例:PERC 4e/DC、PERC 5/i、PERC 6/i のバッテリーテスト)。

本項では、Microsoft® Windows®、Red Hat® Enterprise Linux®、SUSE® Linux Enterprise Server、または VMware® ESX が稼動するシステムでサポートされる診断を記載しています。Online Diagnostics では、インストールされているオペレーティングシステムに応じて、以下の RAID、SAS および SCSI コントローラに加え、RAID、SCSI、IDE コントローラに接続しているハードディスクの診断をサポートしています。

 **メモ:** Online Diagnostics では、IDE コントローラの診断テストは実行しません。

 **メモ:** Online Diagnostics では、SAS 5/IR(アダプタと内蔵)、SAS 5/i 内蔵、SAS 6/IR、S100、S300、H200(アダプタ、内蔵、モジュラー)コントローラに接続しているハードドライブの診断テストが一覧表示されます。ただし、これらのコントローラの診断テスト自体は実行できません。

Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux Enterprise Server、および VMware ESX が稼動するシステムでサポートされている診断

Windows、Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux Enterprise Server、および VMware ESX が稼動するシステムでは、以下のコントローラとそれに接続しているハードドライブの診断がサポートされています。

 **メモ:** Microsoft® Windows Server® 2008 以降では、PERC 320/DC コントローラはサポートされていません。

 **メモ:** CERC ATA 100 4/CH は、Linux オペレーティングシステムではサポートされていません。Windows オペレーティングシステムでのみサポートされています。

 **メモ:** SAS 5/E アダプタおよび SAS 6Gbps HBA は、接続されたテープドライブのみの診断テストをサポートしています。

Online Diagnostics が対応するデバイスの一覧は、Readme の「対応デバイス」を参照してください。

サポートされる RAID コントローラの診断依存性

Dell Online Diagnostics で RAID コントローラ、SCSI コントローラ、接続されているハードドライブの診断テストを実行するには、Dell 対応デバイスのドライバとファームウェアが必要です。

最新のオペレーティングシステムがインストールされたストレージデバイスの診断を担当するシステム管理者は、個々のストレージコントローラと互換性のある要素を表示する詳細マトリックスを必要とします。一方、ストレージコントローラの各バージョンは、次のような要素をサポートしています。

- 1 Array Manager、Storage Management Service、または RAID Storage Manager のバージョン
- 1 そのコントローラに必要な Dell システムの
- 1 ファームウェアバージョン番号

 **メモ:** 対応 RAID コントローラのファームウェア、BIOS、およびドライバの各種バージョンについては、『OpenManage 6.3 用 Dell システムソフトウェアサポートマトリックス』を参照してください。デルサポートサイト support.dell.com/manuals の Dell システムソフトウェアサポートマトリックスにアクセスするには、ソフトウェア → システム管理 → Dell OpenManage リリース を順にクリックします。

ファイバーチャネルコントローラ用の診断

Online Diagnostics が対応するデバイスの一覧は、Readme の「対応デバイス」を参照してください。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

Dell™ Online Diagnosticsの使用

Dell™ Online Diagnostics バージョン 2.16 ユーザーズガイド

- [GUI の使用](#)
- [コマンドラインインタフェースの使用](#)

Dell™ Online Diagnostics には、グラフィカルユーザーインターフェース(GUI)またはコマンドラインインターフェース(CLI) からアクセスできます。本項では、これら両方のインタフェースについて説明します。

GUI の使用

GUI モードで Online Diagnostics を起動すると、列挙が完了するまでスプラッシュ画面が表示されてデバイス検出の進行状況が示されます。スプラッシュ画面には、Online Diagnostics の実行に関する重要な情報も表示されます。デバイスの検出や列挙は、アプリケーションの起動時にのみ実行されます。システムハードウェアを変更した場合は、システム上のデバイスを再列挙するためにアプリケーションを再起動してください。

 **注意:** 列挙の進行中に、Red Hat® Enterprise Linux® システムまたは SUSE® Linux Enterprise Server に USB または CD/DVD デバイスを接続したり取り外したりすると、システムが停止する可能性があります。

 **メモ:** システムが USB コントローラの検出に失敗した場合は、BIOS で USB コントローラが有効になっているか、BIOS 設定メニューで USB コントローラのサポートが BIOS サポート ON に設定されているかを確認してください。

 **メモ:** VMware® ESX では、GUI モードはサポートされていません。CLI モードのみがサポートされています。

メニューオプション

ファイル メニューには、以下のオプションがあります。

- 1 **終了:** アプリケーションを終了するには、このオプションを使用します。
- 1 **設定の保存:** このオプションは、Online Diagnostics によって検出されたデバイスの設定の詳細を保存するために使用します。設定の詳細は、アーカイブファイル内の config.html に保存されます。このアーカイブファイルには、config.zip などの任意の名前を指定できます。このオプションは、Online Diagnostics がテストを実行していないときにのみ使用可能です。システムまたはデバイスに問題がある場合は、設定の詳細を config.zip ファイルに保存し、テクニカルサポートに連絡するときにそのファイルを送信できます。

 **メモ:** 設定の オプションは、Online Diagnostics の GUI バージョンでのみ使用可能です。

- 1 **結果の保存:** テストの結果詳細を保存するには、このオプションを使用します。テスト結果の詳細は、アーカイブファイル内の HTML ファイル(results.html)に保存されます。このアーカイブファイルには、results.zip などの任意の名前を指定できます。このオプションは、実行中のすべてのテストが完了してから使用できます。システムまたはデバイスの問題に関してテクニカルサポートに連絡するとき、診断結果の詳細を保存して、そのファイルをテクニカルサポートに送信できます。

 **メモ:** 結果の保存 オプションは、Online Diagnostics の GUI バージョンでのみ使用可能です。

ヘルプメニューには、次のメニューオプションがあります。

- 1 **ユーザーガイド:** このオプションからは、HTML 形式の『Dell Online Diagnostics ユーザーズガイド』にアクセスできます。
- 1 **バージョン情報:** このオプションは、システムで実行している Dell Online Diagnostics のバージョン情報を表示します。

診断インタフェース

Online Diagnostics の GUI は次の 2 つのセクションに分かれています。

- 1 [診断の選択](#)
- 1 [診断情報](#)

診断の選択

デバイスとテストの表示方法を選択して整理するには、このセクションを使用します。

選択オプション

テストおよび検知されたデバイスの表示方法を整理するには、このリストボックスを使用します。このリストボックスから、3 つのオプションのいずれかを選択できます。

接続別グループ	実行するテストの選択 ベインを整理してツリー表示するには、このオプションを使用します。接続がノードとして表示され、その下に該当するデバイスとテストがリスト表示されます。
デバイス別グループ	実行するテストの選択 ベインを整理してツリー表示するには、このオプションを使用します。デバイスがノードとして表示され、その下に各デバイスに該当するテストがリスト表示されます。デバイスがグレーで表示されている場合は、そのデバイスに使用できるテストがありません。ただし、そのデバイスの設定の詳細は表示できます。

テスト別グループ | **実行するテストの選択** ペインを整理してツリー表示するには、このオプションを使用します。テストがノードとして表示され、その下に該当するデバイスがリスト表示されます。

次の表では、**実行するテストの選択** ペイン内のアイコンについて説明します。

	デバイスを示します。
	非重要エラーまたは警告が発生したデバイスを示します。
	テストを示します。
	非重要エラーまたは警告が発生したテストを示します。その上にマウスを重ねると、テストの警告メッセージが表示されます。

すべて選択:このボタンをクリックすると、**実行するテストの選択** ペインに表示されているデバイスとテストがすべて選択されます。

すべて削除:このボタンをクリックすると、**実行するテストの選択** ペインで選択したデバイスとテストがすべて削除されます。

実行するテストの選択

実行するデバイスとテストを選択するには、このセクションを使用します。このセクションは、**選択オプション** リストボックスで選択したオプションに従って整理されます。

デバイス別グループで表示する場合

- 1 デバイスの隣にあるチェックボックスをオンにすると、このデバイス用のテストがすべて選択されます。
- 1 デバイスノードを展開し、実行するテストを個別に選択することもできます。

テスト別グループで表示する場合

- 1 デバイスの隣にあるチェックボックスをオンにすると、このテスト用のデバイスがすべて選択されます。
- 1 テストノードを展開し、テストを実行するデバイスを個別に選択することもできます。

 **メモ: 診断情報** セクション内でデバイスを選択し、その設定の詳細を**設定** タブでハイライト表示することもできます。

診断情報

システム設定およびオペレーション状態の情報を表示するには、このセクションを使用します。また、選択したテストを実行して、これらのテスト結果を表示できます。

設定

検知されたデバイスの動作状態とその設定詳細を表示するには、このタブを使用します。デバイスの設定詳細を表示するには、**実行するテストの選択** ペインからデバイスを選択します。選択したデバイスの設定詳細は、このページでハイライトされ、次の見出しの下に表示されます。

デバイス名: デバイスの名前です。

デバイス属性: デバイスの属性を表示します。以下はデバイス属性です。

状態	デバイスの動作状態を示します。
説明	簡単な説明を示します。
クラス	デバイスが属するクラスを示します。たとえば、デバイス COM1 は「シリアルポート」クラスに属します。
場所	システム内のデバイスの場所を示します。たとえば、システム基板などです。
追加情報	その他の情報を示します。たとえば、デバイスがシステム基板に組み込まれている場合は、このフィールドに 組み込み という値が表示されます。

値: デバイスの各属性に対応する値を示します。

追加デバイス情報: デバイスの追加情報がある場合は、**設定** タブに表示されます。追加デバイスが使用可能な場合は、情報アイコン が**設定** タブ内のデバイス名の隣に表示されます。行をダブルクリックすると、そのデバイスのその他の情報が表示されます。詳細については、「[付録](#)」を参照してください。

選択したテスト

実行するテストの選択 ペインで選択したテストを実行するには、このタブを使用します。このタブには、次のセクションが含まれています。

- 1 **選択した診断テスト**: このリストボックスには、**実行するテストの選択** ペインで選択したテストがすべて表示されます。
- 1 **診断オプション**: 選択したテストを実行するには、**選択したテスト** タブのこのセクションを使用します。このセクションには、次のコントロールが含まれています。

テストの | 選択したテストを開始します。複数のテストを同時に実行できます。

実行	
クイックテスト	特定のテストを短時間で終了するアルゴリズムを使用します。 クイックテスト モードでエラーが報告されなくても、テストしたハードウェアに問題があると思われる場合は、 クイックテスト モードをクリア (選択解除) して、再度同じテストを実行することを推奨します。
パスの数	選択したテストの反復回数を指定します。最小値は 1、最大値は 20 です。

 **メモ:** **状態** タブで特定のテストの行をダブルクリックすると、その詳細情報が表示されます。

状態

現在実行中のテストまたはすでに実行が完了したテストの状態を表示するには、このタブを使用します。**経過時間** と **全体の進行状況** は、状態の一部として表示されます。**経過時間** には、テストのジョブグループが実行を開始してから経過した時間が hh:mm:ss の形式で表示されます。**全体の進行状況** は、現在のジョブグループ内にあるすべてのテストの累積された進行状況を示します。

各テストの状態は、次の列見出しに表示されます。

- 1 **ID:** 自動生成されたテスト ID です。
- 1 **デバイス:** テストが実行されるデバイスです。
- 1 **テスト:** 実行されるテストです。
- 1 **進行状況:** テストの進行状況をパーセントで表します。
- 1 **現在のパス:** テストの **パスの数** オプションを選択した場合に、現在実行中のパスを示します。
- 1 **パスの合計:** テストの **パスの数** オプションを選択した場合は、実行を指定したパスの合計数を示します。
- 1 **状態:** テストの現在の状態を示します。テストアイテムをダブルクリックすると、デバイス名、デバイスの説明、デバイスの場所、テスト名、テストの説明などの詳細が表示されます。以下のテキストインジケータは、テストの状態を示します。

完了	テストが完了したことを示します。
一時停止	テストが一時停止されたことを示します。テストは手動でのみ一時停止できます。一部の診断テストは、 一時停止 機能をサポートしていません。
中止	テストが中止されたことを示します。テストは手動でのみ中止できます。一部の診断テストは、 中止 機能をサポートしていません。
実行	テストが実行中であることを示します。
準備完了	テストは開始していませんが、実行の準備ができていないことを示します。 準備完了 状況にあるテストは、中止できます。

- 1 **結果:** テストの結果を記号で示します。たとえば、テストの **状態** 列には **完了** と表示されますが、**結果** 列にはテストが正常に完了したかどうかを示されます。結果をダブルクリックすると、デバイス名、デバイスの説明、デバイスの場所、テスト名、テストの説明、テストの総合的結果などの詳細が表示されます。

次の表では、各アイコンおよびテスト結果インジケータの意味を説明します。

	テストは正常に完了しました。
	テストは実行中です。
	テストは中止されました。
	テストの実行中に非重要エラーが発生しました。
	テストに失敗しました。
	テストは一時停止されました。

結果

実行されたテストの結果と、各テストの結果に関する短い説明を表示するには、このタブを使用します。

このタブの **結果** 列には、テスト結果の短い説明が表示されます。さらに、行内の任意の場所をダブルクリックすると、対応する結果メッセージが表示されます。たとえば、テストに失敗した場合、**結果** 列には、発生した不具合と必要な処置が表示されます。

右クリックすると、**削除 / 完了したテストをすべて削除** メニューが開きます。個別のテストのテスト結果を削除するには、**削除** を選択します。完了したテストのテスト結果を **状態** タブと **結果** タブからすべて削除するには、**完了したテストをすべて削除** を選択します。

コマンドラインインタフェースの使用

CLI モードでアプリケーションを実行するには、x:\<インストールディレクトリ>\oldiags\bin から **pediags** を実行します。ここで、x はシステムドライブを指します。Windows オペレーティングシステムでは、**スタート** → **プログラム** → **Online Diagnostics 2.x.y** → **Online Diagnostics CLI** をクリックして、CLI モードでアプリケーションを実行することもできます。

 **注意:** 列挙の進行中に、Red Hat Enterprise Linux システム、SUSE Linux Enterprise Server、または VMware ESX に USB または CD/DVD デバイスを接続したり、取り外したりすると、システムがハングアップする可能性があります。

プライマリ CLI コマンド

以下のコマンドは Online Diagnostics の機能を実行します。

```
1 pediams --help
```

このコマンドは、CLI コマンドの短いテキストヘルプを表示します。

```
1 pediams --show all
```

このコマンドは、使用可能なデバイスクラスとテストをすべて表示します。

```
1 pediams <デバイスクラス> --help
```

このコマンドは、指定した **<デバイスクラス>** のテキストヘルプを表示します。たとえば、コマンド `pediams modem --help` は、モデムとして列挙されているデバイスと、それらに関連付けられている各種テストのヘルプ情報を表示します。**<デバイスクラス>** は、ネットワークや cddvd などのデバイスのパッケージ名です。

```
1 pediams <デバイスクラス> --show [device|test|all] [<インデックスオプション>] [<詳細オプション>] [fmt=lst|tbl|xml]
```

このコマンドは、デバイスクラス、テスト、またはデバイスクラスとテストの両方のリストを表示します。デフォルトオプションは **すべて** です。このオプションは、デバイスクラスとテストの両方を表示します。インデックスオプションを指定し、出力の表示形式を選択できます。パラメータは、上記の順序で記述してください。フォーマットオプションは常に最後のパラメータとします。

たとえば、コマンド `pediams network --show test test-index=1,2,3 fmt=tbl` を入力すると、インデックス番号が 1、2、3 のテストが表形式で表示されます。

コマンド `pediams network --show device device-index=1,2,3 fmt=tbl` を入力すると、インデックス番号が 1、2、3 のデバイスクラスが表形式で表示されます。

追加デバイス情報がある場合は、`pediams <デバイスクラス> --show device details=true` を使用して表示します。

`details=true` オプションは、“`--show device`” でのみ使用できます。たとえば、SCSI デバイスの追加情報を表示するには、次のように入力します。
`pediams Scsidevdiag --show device details=true`

```
1 pediams <デバイスクラス> --run [<インデックスオプション>] [<テスト設定>] [fmt=lst|tbl|xml]
```

このコマンドは、選択したデバイスクラスのテストを実行します。インデックスオプションとテスト設定を指定し、結果の表示形式を選択できます。これらのパラメータは上のリストの順序に従う必要があり、形式オプションは常に最後のパラメータです。

<テスト設定> パラメータでは、`quicktest` を `true` または `false` に指定できます。選択したテストの繰り返し数またはパス数を指定することもできます。`passes` では、実行するパスの数を指定します。

たとえば、コマンド `pediams network --run test-index=1,2,3 quicktest=true passes=6 fmt=tbl` を実行すると、インデックス番号が 1、2、3 のテストがネットワークデバイスクラスで 6 回実行されます。結果は表形式で表示されます。

```
1 pediams <デバイスクラス> --run time= x (x はテスト時間を分で表したものです。)
```

このコマンドを使用すると、時間を指定して診断テストを実行できます。たとえば、`pediams scsidevdiag --run device-index=1 test-index=1 time=30` と入力すると、デバイスのインデックスが 1 の SCSI デバイス上で、インデックスが 1 の診断テストが 30 分間実行されます。テストは、72 時間または 999 パスのどちらか先に実行したところで停止します。

 **メモ:** `passes` パラメータの実行時間は、3 日間(72 時間)に制限されています。サポートされている反復回数は 1~999 回です。

 **メモ:** `time` パラメータは常に分で指定します。また、`time` パラメータは `--run` パラメータの後に入力します。

 **メモ:** 2 つの異なるコンソールから同じデバイスクラスに `pediams` コマンドを同時に実行すると、「システムリソースが他の診断インスタンスで既に使用されている可能性があります」というメッセージが表示されます

<Ctrl><C>を使って CLI モードの Online Diagnostics を中止する

<Ctrl><C> を使用して `--show` コマンドで中止を実行しても、処置は中止されません。テストを実行しているときは、実行シーケンス中いつでも <Ctrl><C> を使用して、テストを停止できます。ただし、出力が表示されず、空白のメッセージでテストが終了する場合があります。この状況は、診断テストが開始する前に `pediams` コマンドに割り込みが生じた場合に起こることがあります。特定のテストで **中止** 機能がサポートされていても、既に開始したテストを中止すると、`Test was aborted the the user (ユーザーがテストを中止しました)` という結果イベントでテストが中止される可能性があります。複数パスの場合は、テストが **中止** をサポートしていても、`(Test was aborted the the user (ユーザーがテストを中止しました))` という結果イベントでテストが中止されないこともあります。あるパスから別のパスへの移行中に複数のパステストが中止された場合に、この状況が発生することがあります。

中止 機能をサポートしないテストは、常に最後まで実行されます。

CLI によるスクリプト編集

Online Diagnostics CLI では、管理者はバッチプログラムまたはスクリプトを作成してオペレーティングシステムから実行できます。多数のシステムを使用する企業では、システム管理者がシステムコンポーネントの正常性を判別するための診断テストを実行するスクリプトを作成できます。

多くの場合、CLI は、特定のタスクを実行する際にシステム情報を迅速に取得するのに役立ちます。オペレーティングシステムのリダイレクト機能を使用すると、診断プログラムの出力をファイルにリダイレクトできます。

また、スクリプトの作成時に、次の表で説明する終了コードも使用できます。

0	テストの結果は合格です。
1	テストの結果は警告です。
2	テストの結果は失敗です。
3	依存性または実行時の不具合のため、アプリケーションでエラーが発生しました。

終了コードの 0、1、2 は、(複数バスか単一バスかに関係なく) テストの実行にのみ適用できます。終了コードは、実行されたすべてのテストの総合的な状況です。たとえば、20 のテストのうち、1 つのテストの結果が警告、別のテストの結果が失敗、その他すべてのテストに成功した場合、最終的な終了コードは 2 になります。失敗した結果の終了コードは、警告の結果の終了コードに優先されません。

診断のスケジュール

オペレーティングシステムのタスクスケジュール機能を使って、システムの Online Diagnostics をスケジュールできます。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

はじめに

Dell™ Online Diagnostics バージョン 2.16 ユーザーズガイド

- [本リリースの新機能](#)
- [対応 OS](#)
- [Online Diagnostics でサポートされているデバイス](#)
- [診断の機能](#)

Dell™ Online Diagnostics は、診断プログラムまたはテストモジュールのスタンドアロンのスイートで、生産環境で Dell システムの診断テストを実行できるため、Dell システムのアップタイムを最大化します。Online Diagnostics では、シャーシ、およびハードドライブ、物理メモリ、ネットワークインタフェース (NIC) などのストレージコンポーネントに対して診断テストを実行できます。Online Diagnostics でシステムから検出されたハードウェアに対し、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) またはコマンドラインインターフェース (CLI) を使用して診断テストを実行できます。

本リリースの新機能

本リリースの Online Diagnostics は、次をサポートしています。

- 1 Dell™ PowerEdge™ C1100, PowerEdge C1100 MLK, PowerEdge C2100, PowerEdge C6100, PowerEdge C6100 MLK, PowerEdge R715, PowerEdge M710HD, および PowerEdge M610x
- 1 Dell™ PowerVault™ NX300 ネットワークアタッチドストレージ
- 1 ブレードサーバー用の新しいネットワークインタフェースカード
- 1 Red Hat® Enterprise Linux® 5.5
- 1 SUSE Linux Enterprise Server 11 SP1
- 1 VMware® ESX 4.0 アップデート 1
- 1 ファイバチャネルコントローラ

対応 OS

対応オペレーティングシステムについては、Online Diagnostics の Readme を参照してください。デルサポートサイト support.dell.com/manuals の ReadMe にアクセスするには、**ソフトウェア** → **システム管理** → **Dell Online Diagnostics** を順にクリックします。

Online Diagnostics でサポートされているデバイス

Online Diagnostics では、以下のハードウェアデバイスの診断がサポートされています。

- 1 CD ドライブ
- 1 DVD ドライブ
- 1 CD-RW/DVD コンビネーションドライブ
- 1 ディスケットドライブ
- 1 ハードドライブ
- 1 NIC
- 1 内部モデム
- 1 SCSI コントローラ
- 1 RAID コントローラ
- 1 ファイバチャネルコントローラ
- 1 Dell Remote Access Controller (DRAC 4 と DRAC 5)
- 1 USB コントローラ
- 1 SAS コントローラ

 **メモ:** 詳細については、「[RAID コントローラ](#)、[SAS コントローラ](#)、[SCSI コントローラ](#)、および[接続しているハードドライブの診断](#)」を参照してください。

- 1 シリアルポート
- 1 テープドライブ
- 1 テープオートローダとライブラリ

 **メモ:** 詳細については、「[テープドライブ、オートローダ、ライブラリの診断](#)」を参照してください。

 **メモ:** テープオートローダとライブラリの診断テストは、Microsoft Windows Server 2008 オペレーティングシステムでは使用できません。

- 1 DIMM
- 1 外部ストレージエンクロージャ

診断の機能

Online Diagnostics には以下の機能があります。

1 デバイスの検出

この機能を使用すると、Online Diagnostics を有効にして、Dell システム上のテスト可能なデバイスすべての列挙と検出ができます。列挙は、アプリケーションの起動時に実行されます。システムハードウェアを変更した場合は、アプリケーションを再起動してシステム上のデバイスを再列挙してください。

1 デバイスとテストの選択

この機能を使用すると、診断テストを実行するデバイスと、選択したデバイスで実行するテストを選択できます。「[診断テストの実行](#)」を参照してください。

1 診断テストのレビュー

この機能を使用すると、実行するために選択した診断テストをレビューできます。「[診断テストの実行](#)」を参照してください。

1 診断テスト状態

この機能を使うと、実行中の診断テストの状態を表示できます。「[診断テストの実行](#)」を参照してください。

1 診断テストの結果

この機能を使用すると、診断テストの結果を表示できます。「[診断テストの実行](#)」を参照してください。

1 ヘルプ

この機能を使用すると、さまざまな診断テストとデバイスに関するヘルプ情報を表示できます。デバイスまたは診断テストの説明を表示するには、デバイスまたはテストを選択し、GUI で **ヘルプ** タブを選択するか、CLI で `pediags --help` コマンドを実行します。

1 クイックテスト

この機能を使用すると、テストを短時間で実行できるアルゴリズムを使用できます。「[テスト実行設定](#)」を参照してください。

1 設定と結果の保存

この機能を使用すると、システム設定とテスト結果を保存できます。「[Dell Online Diagnosticsの使用](#)」を参照してください。

1 パスの数

この機能を使用すると、選択したテストを指定された回数だけ反復できます。最小値は 1 で、最大値は 20 です。

 **メモ:** CLI モードでは、Online Diagnostics で最大 999 パスのテストを実行できます。

1 実行時間

この機能を使用すると、診断テストを実行する期間を分単位で指定できます。この機能は、Online Diagnostics の CLI バージョンでのみ使用できます。

 **メモ:** テストは、72 時間または 999 パスのどちらか先に実行したところで停止します。

1 自動ログ

Online Diagnostics では、診断テスト結果が XML 形式で自動生成ファイルに保存されます (`result.xml`)。このファイルは、Microsoft Windows オペレーティングシステムでは `x:\<インストールディレクトリ>\dell\diagnostics\log` ディレクトリ (x: はシステムドライブ) に、Linux オペレーティングシステムでは `/var/log/dell/diagnostics/log` にあります。ログファイルの最大サイズは、512 KB です。Online Diagnostics は、ログファイルのサイズが上限に達すると先入れ先出し (FIFO) 方式でログエントリを削除します。また、ハードウェア設定を自動生成ファイルに保存します (`config.xml`)。これは `result.xml` と同じ場所に保存されます。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

Dell Online Diagnostics のセットアップ

Dell™ Online Diagnostics バージョン 2.16 ユーザーズガイド

- [作業を開始する前に](#)
- [注意事項](#)
- [セットアップと診断の必要条件](#)
- [診断のセットアップ](#)

ここでは、Dell™ Online Diagnostics のセットアップ過程を説明します。

作業を開始する前に

- 1 セットアップ要件を読み、ご使用のシステムが最低必要条件を満たしていることを確認してください。
- 1 このアプリケーションに付属の Online Diagnostics readme ファイルをお読みください。readme には Online Diagnostics の最新情報と既知の問題について情報が記載されています。

注意事項

- 1 Online Diagnostics は、個々のシステムのハードウェアに関する問題を診断する目的で設計されています。Online Diagnostics は、単一システム上の NIC に問題がある場合を除いては、ネットワークレベルで発生した問題には診断しません。
- 1 ハードドライブの診断テストは、他のハードドライブの I/O アクティビティへの影響を少なくするため、優先順位の低いバックグラウンドタスクとして実行されます。優先度が低いため、ハードドライブ診断テストの実行中はドライブの動作を制限してください。他のハードドライブの I/O アクティビティが同時に進行していると、テストの実行速度が低下したり、停止する可能性があります。そのような場合、ハードドライブの I/O アクティビティが停止すると、テストは再開されます。
- 1 Online Diagnostics は、システムで実行している他のアプリケーションと並列実行されます。診断テストを実行すると、システム負荷が著しく増加するため、システムや実行中のアプリケーションのパフォーマンスに影響します。迅速な応答を必要としたり、大量のシステムリソースを消費する重要なアプリケーションを実行している場合は、これらの診断を実行する前に適切な措置を講じてください。重要でないアプリケーションをすべて閉じ、ピーク時以外の時間に診断テストを実行してください。
- 1 グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) モードとコマンドラインインターフェイス (CLI) モードで同時に実行することはできません。

セットアップと診断の必要条件

Online Diagnostics をローカルで実行するには、各管理下システムでセットアップする必要があります。

管理下システムの要件

- 1 256 MB 以上の RAM
- 1 システムドライブに 40 MB 以上の空き容量 (Windows の場合は C:、Linux の場合は /opt)
- 1 Dell システムに対応オペレーティングシステムがインストールされている。[「対応 OS」](#)を参照してください。
- 1 RAID コントローラ、RAID 接続ハードドライブ、テープドライブ、テープオートローダ、テープライブラリの診断を実行するためのデル認定デバイスドライバとファームウェア。詳細については、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。また、最新のドライバとファームウェアについては、デルサポートサイト support.dell.com にアクセスしてください。RAID コントローラの最新のドライバとファームウェアのバージョンについては、[「サポートされる RAID コントローラの診断依存性」](#)のリストを参照してください。

診断の必要条件

- 1 Online Diagnostics を実行するには管理者権限でログインする必要があります。
- 1 [表 2-1](#) は、Online Diagnostics を実行する各オペレーティングシステムに必要なデバイスと依存関係のリストです。これらの依存関係が満たされていないと、Online Diagnostics はこの表で説明しているデフォルトの動作になります。

表 2-1 デバイスの依存関係

デバイス	オペレーティングシステム	依存関係	デフォルトの動作 (依存関係が満たされていないとき)
Intel® NIC	Microsoft® Windows®	Intel PROSet 管理エージェントまたは Microsoft デバイスマネージャ用の Intel PROSet ユーティリティ。これらは、Intel ドライバのインストール時に、オプションとしてインストールされます。Intel ドライバは、デルサポートサイト support.dell.com からダウンロードできます。ドライバおよびダウンロードは、選択した製品の ネットワーク カテゴリの下に表示されます。	Intel ベンダーネットワークテストは使用できません。

メモ: 対応オペレーティングシステムについては、デルサポートサイト support.dell.com/manuals の「Online Diagnostics の Readme」を参照してください。

<p>メモ: PCIe Intel ネットワークインタフェースカード(NIC) を使用しているシステムでは、Microsoft Windows の Intel ネットワークアダプタ診断に、Microsoft デバイスマネージャ用の Intel PROSet ユーティリティが必要です。PCI-X Intel NIC を使用している場合は、Microsoft デバイスマネージャ用の Intel PROSet ユーティリティまたは Intel PROSet 管理エージェントのいずれかをインストールして、Intel ネットワークアダプタ診断を有効にします。デルがサポートするその他の Intel NIC を使用している場合、Intel PROSet 管理エージェントをインストールする必要があります。これらの必要条件が満たされない場合、Intel ベンダーテストは使用できません (デフォルトのネットワーク診断のみ使用可能)。</p>			
DRAC 4	Microsoft Windows、SUSE Linux Enterprise Server、Red Hat Enterprise Linux	Windows 上の Dell Remote Access Controller (DRAC)コンポーネントと Linux 上の Remote Access Core。DRAC のコンポーネントは、『Dell Systems Management Tools and Documentation DVD』を使用して、または support.dell.com からダウンロードして、インストールできます。	ドライバとサービスがインストールされていないという内部警告が発生し、すべてのテストに失敗します。
USB コントローラ	Red Hat Enterprise Linux と SUSE Linux Enterprise Server	usbutils パッケージ(バージョン 0.11 以降)	USB デバイス用の診断テストは、使用できません。
すべての対応デバイス	Red Hat Enterprise Linux と SUSE Linux Enterprise Server	pciutils パッケージ(バージョン 2.1.11 以降)	Online Diagnostics のインストールに失敗します。
Broadcom® NIC	Microsoft Windows	Broadcom Advanced Controller Suite(BACS)。BACS は、Broadcom ドライバのインストール時に、オプションとしてインストールされます。Broadcom ドライバは、デルサポートサイト support.dell.com からダウンロードできます。 ドライバおよびダウンロード は、選択した製品の ネットワーク カテゴリの下に表示されます。	BACS がない場合は、列挙された Broadcom のテストに失敗します。
Broadcom NIC	Red Hat Enterprise Linux と SUSE Linux Enterprise Server	bnx2 ドライババージョン 1.4.51 以降。 tg3 ドライババージョン 3.71 以降。	Online Diagnostics の GUI が正しく機能しない可能性があります。
Emulex® ファイバチャネルコントローラ	Linux オペレーティングシステム	1. Emulex からの HBAAnywhere ユーティリティ。このユーティリティをダウンロードするには、Emulex のウェブサイト(www.emulex.com)にアクセスします。Downloads(ダウンロード) → Dell。の順にクリックします。アダプタのモデル番号をクリックします。Current Drivers(現在のドライバ) セクションから Linux をクリックし、Applications Kit(アプリケーションキット) をダウンロードします。 2. オペレーティングシステム DVD に収録されているlibbbaapi rpm をインストールします。	ファイバチャネルコントローラは列挙されず、診断テストは利用できません。
QLogic® ファイバチャネルコントローラ	オペレーティングシステム	1. Linux ドライバ向けのSNIA API。これをダウンロードするには、Qlogic のウェブサイト(www.qlogic.com)にアクセスします。Downloads(ダウンロード) → Fibre Channel Adapters(ファイバチャネルアダプタ)。の順にクリックします。モデルとオペレーティングシステムを選択し、Go(実行)をクリックします。 2. オペレーティングシステム DVD に収録されているlibbbaapi rpm をインストールします。	ファイバチャネルコントローラは列挙されず、診断テストは利用できません。

メモ: Dell システム SC420、SC430、SC440、SC1420、SC1430、T105 は IPMI をサポートしていないため、メモリ診断はサポートされていません。

診断のセットアップ

Microsoft Windows と Linux オペレーティングシステム用の Online Diagnostics インストールファイルは、デルサポートサイト support.dell.com から入手できます。

メモ: Windows Server 2008(Core)オペレーティングシステムでは、Dell Online Diagnostics は Microsoft Visual C++ 2005 再配布可能パッケージ (x86) がインストールされている場合にのみ機能します。Visual C++ 再配布可能パッケージは、Microsoft のウェブサイト www.microsoft.com から入手できます。

メモ: Online Diagnostics のインストール時に、エンドユーザー使用許諾契約(EULA)に同意する必要があります。

Microsoft Windows への Online Diagnostics のインストール

対応する Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムに Online Diagnostics をインストールするには、以下の手順を実行してください。

- .exe ファイルを実行して、インストーラを開始します。
Dell Online Diagnostics 2.x.y セットアップウィザードへようこそ 画面が表示されます。
- 次へ をクリックします。
Dell ソフトウェア製品ライセンス契約 が表示されます。
- 同意する をクリックして、契約条件を受け入れます。
- インストール をクリックしてデフォルトのディレクトリパスを受け入れるか、参照 をクリックして Online Diagnostics のインストール先ディレクトリに移動し、インストール をクリックします。
- 完了 をクリックします。
- スタート → プログラム → Online Diagnostics 2.x.y の順にクリックし、Online Diagnostics GUI を選択して GUI モードで実行するか、Online Diagnostics CLI を選択して CLI モードで実行します。Windows Server 2008(コア)オペレーティングシステムで Online Diagnostics を実行するには、StartDiags.exe プログラムを実行して GUI を実行するか、x:\<インストールディレクトリ>\online_diagnostics\oldiags\bin(x はシステムドライバ)から pediams.exe を実行して CLI を実行します。

メモ: スタートメニューから Online Diagnostics を実行するオプションは、このアプリケーションをインストールした管理者しか使用できません。他のすべてのシステム管理者は、インストールフォルダ内にある StartDiags ショートカットを使用してアプリケーションを実行する必要があります。

-  **メモ:** Windows® Small Business Server システムでは、ネットワーク管理者は Dell Online Diagnostics アプリケーションを実行するために十分な権限を持っていません。Online Diagnostics アプリケーションを実行するには、**スタート→プログラム→ Online Diagnostics 2.x.y** の順にクリックし、**Online Diagnostics GUI** または **Online Diagnostics CLI** を右クリックして、**管理者として実行** を選択します。
-  **メモ:** Windows Server® 2008 R2 edition 以降では、システム管理者権限を保有するユーザーは、Dell Online Diagnostics アプリケーションを直接実行することはできません。Online Diagnostics アプリケーションを実行するには、**スタート→プログラム→ Online Diagnostics 2.x.y** の順にクリックし、**Online Diagnostics GUI** または **Online Diagnostics CLI** を右クリックして、**管理者として実行** を選択します。
-  **メモ:** Online Diagnostics をアンインストールするには、**スタート→プログラム→ Online Diagnostics 2.x.y→ アンインストール** の順にクリックするか、**uninst.exe** ファイルを **x:\<インストールディレクトリ>\online diagnostics** (x はシステムドライブ) から実行します。
-  **メモ:** Online Diagnostics のアンインストールには、システムドライブに 40 KB 以上の空き容量が必要です。

Microsoft Windows と Linux オペレーティングシステムで Online Diagnostics を CLI モードで実行するには、**pediags** プログラムを **x:\<インストールディレクトリ>\online diagnostics\oldiags\bin** (x はシステムドライブ) から実行します。

-  **メモ:** **pediags** プログラムは、必ず **x:\<インストールディレクトリ>\online diagnostics\oldiags\bin** から実行してください。ネットワークマッピングされたドライブから **pediags** プログラムをインストールまたは実行しないでください。一部のネットワーク診断テストでは、ネットワーク接続が切断されます。

Linux および ESX への Online Diagnostics のインストール

対応する Linux または ESX オペレーティングシステムが稼動するシステムに Online Diagnostics をインストールするには、以下の手順を実行してください。

1. **tar.gz** ファイルを目的の場所に解凍します。解凍されたファイルには、インストールスクリプト (**install.sh**) と必要なインストールパッケージが含まれています。
2. **install.sh** を実行して、これらのパッケージをインストールします。

Dell ソフトウェア製品ライセンス契約 が表示されます。

3. **y** を入力して契約条件に同意します。

アプリケーションの実行に必要な全ファイルがデフォルトのインストール先ディレクトリ **/opt/dell/onlinediags** に抽出されます。

4. Online Diagnostics を起動するには、**/opt/dell/onlinediags** ディレクトリで **startDiags.sh** を実行します。

-  **メモ:** **startDiags.sh** を他のディレクトリに解凍またはコピーしてアプリケーションを実行しないでください。
-  **メモ:** Online Diagnostics を読み取り専用ファイルシステムで実行することはできません。
-  **メモ:** アプリケーションをアンインストールするには、**uninstall.sh** を実行します。このファイルは、インストール先ディレクトリにあります。

Online Diagnostics の GUI は 32 ビットアプリケーションで、Compatibility Arch Support パッケージがないと Red Hat Enterprise Linux(x86_64) システムでは機能しません。

Red Hat Enterprise Linux(x86_64) システムで Online Diagnostics を開始しようとすると、次のメッセージが表示されることがあります。

```
Compatibility Arch Support package(s) [gtk, pango, and redhat-artwork] is not installed on this system. For details on installing the package(s) please refer to the README file. (このシステムには、Compatibility Arch Support パッケージ [gtk, pango, redhat-artwork] がインストールされていません。パッケージのインストールについては、README ファイルを参照してください。)
```

この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. Red Hat パッケージ管理ユーティリティ(**redhat-config-packages**)を実行します。
2. **パッケージの管理** ウィンドウで **Compatibility Arch Support** チェックボックスをオンにし、**詳細** をクリックします。新しい **Compatibility Arch Support 詳細** ウィンドウが表示されます。
3. **gtk, pango, redhat-artwork** パッケージのインストールを選択し、**閉じる** をクリックします。
4. **パッケージの管理** ウィンドウで **アップデート** ボタンをクリックします。

-  **メモ:** Online Diagnostics の複数のインスタンスを実行することはできません。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

Dell Online Diagnostics の実行 (GUI モード)

Dell™ Online Diagnostics バージョン 2.16 ユーザーズガイド

● 診断テストの実行

ここでは、Dell™ Online Diagnostics をグラフィカルユーザーインターフェース(GUI) モードで実行する手順を説明します。

診断テストの実行

診断テストを実行するには、次の手順に従います。

1. アプリケーションを起動します。

2. 左側の **診断の選択** セクションで、**選択オプション** ドロップダウンメニューから適切なオプションを選択します。

1 **接続別グループ** オプションを選択すると、接続がノードとして表示され、対応するデバイスとデバイスが各接続の下に表示されます。

1 **デバイス別グループ** オプションを選択すると、システムデバイスが一覧になります。各デバイスに使用可能なすべてのテストがデバイスの下に表示されます。

 **メモ:** デバイスがグレーで表示される場合、デバイスに使用できるテストはありません。このデバイスの設定情報は、**設定** タブに表示されます。

1 **テスト別グループ** オプションを選択すると、使用可能なテストがすべてリスト表示され、対応するデバイスが各テストの下に表示されます。

3. 実行するテストのチェックボックスをオンにします。

右側の **診断情報** セクションにある **選択したテスト** タブには、現在選択している診断テストが一覧表示されます。**テストの実行** をクリックして、**選択したテストを実行します**。

 **メモ:** 非重要エラーが発生したテストを選択すると、**警告** 行に非重要アイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックすると、テストの警告が表示されます。

 **メモ:** テストは選択した順にキューに入って実行されます。テストのキュー待ちを停止するには、**キュー待ちの診断テスト** ウィンドウの **停止** ボタンをクリックします。

4. テストの実行ステータスをモニタするには、**状態** タブをクリックします。

1 実行中のテストを中止するには、テストを右クリックし、**中止** を選択します。**すべて中止** を選択すると、キュー待ちのテストがすべて停止します。

1 実行中のテストを一時停止するには、テストを右クリックし、**一時停止** を選択します。

1 一時停止したテストを再開するには、テストを右クリックし、**再開** を選択します。

結果 列のアイコンは、各テストの状態を示します。

1 **進行中** アイコン()は、現在テストが実行中であることを示します。

1 **中止** アイコン()は、テストが中止されたことを示します。

 **メモ:** 一部の診断テストは、**中止** オプションをサポートしていません。**準備完了** 状態のテストは、中止できます。**実行中** 状態の場合は、**中止** オプションがサポートされているテストのみ中止できます。

1 **一時停止** アイコン()は、一時停止されたテストで、後で再開できます。

 **メモ:** 一部の診断テストは、**一時停止** 機能をサポートしていません。

1 **OK** アイコン()は、テストが正常に実行され、エラーが発生しなかったことを示します。

 **メモ:** **中止** / **一時停止** / **すべて中止** オプションは、キューが完了してから数秒が経過しないと使用できません。**中止** / **一時停止** / **すべて中止** オプションを使用するには、表でキュー内の**すべての**テストの **状態** 列に値を入力する必要があります。

1 **非重要** アイコン()は、テストの実行時に非重要エラーが発生したことを示します。

1 **重要** アイコン()は、テストに失敗したことを示します。

5. **結果** タブをクリックすると、テストの実行結果に関する短い説明が表示されます。**結果** 列には、テストの結果に関する短い説明が含まれます。行の内側をダブルクリックして、特定のテストの詳細を表示することもできます。テストの詳細は、ポップアップウィンドウとして表示されます。たとえば、テストの実行中、アプリケーションで非重要エラーが発生すると、**結果** 列にエラーの原因に関する短い説明と必要な処置が表示されます。

テスト実行設定

高速アルゴリズムを使用してテストを実行するように、テストの実行設定を指定できます。以下の手順を実行します。

1. **診断の選択** セクションで、実行するテストを選択します。
 2. **診断情報** セクションで**選択したテスト**タブをクリックします。選択したすべてのテストが表示されます。
 3. 下部の **診断オプション** セクション で**クイックテスト** チェックボックスをオンにします。選択したテストの 1 つでこのオプションが使用可能な場合は、このモードでテストが実行されます。
 -  **メモ:** 一部のテストでは、**クイックテスト** 機能がテストモードとしてサポートされていません。少数のテストでのみ、この機能がサポートされています。
 -  **メモ:** **クイックテスト** モードでエラーが報告されなくても、テストしたハードウェアに問題があると思われる場合は、**クイックテスト** モードをオフにして、テストを再実行することをお勧めします。
 4. **パスの数** オプションを使用すると、テストの実行回数を指定できます。最小値は 1 で、最大値は 20 です。
 -  **メモ:** Dell Remote Access Controller (DRAC) の診断テストを実行するには、システムに RAC ソフトウェアコンポーネントが存在する必要があります。詳細については、DRAC のユーザーガイドを参照してください。
 -  **メモ:** テープメディアテストは、LTO-4 ドライブで **中止** オプションをサポートしません。
-

[目次に戻る](#)